

2024/9/10 (火)

朝の礼拝

聖書 創世記 1 章 1 節 (旧約聖書 1 頁)

初めに神は天と地を創造された。地は混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」すると光があった。神は光を見て良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

闇の時にこそ

神が天地を創造された物語には地は混沌として、深いところに闇があったとあります。闇は暗さだけでなく、カオス、秩序のない状態という意味です。そこで神は「光あれ」と言われ、光と闇を分け、光を昼、闇を夜とされたとあります。

でも闇のない、光だけの世界だったら良かったのにと考えませんか。なぜ秩序のない世界、闇を夜として残されたのでしょうか。ひょっとして神は昼の世界だけだと、わたしたちが疲れてしまうことを知っていたのかもしれませんが。

夜、闇って暗いですね。でも暗いって悪いことですか。暗くないと休めない、眠れないですね。だから闇を残されたのは休みなさいという意味なのかもしれません。不安、恐れ、疑いに心騒ぐ時ほど、立ち止まり、休みなさいと言われているのかもしれませんが。

詩編に「あなたの言葉は私の足の灯（ともしび）、私の道の光」（詩編 119：105）とあります。詩人が闇のうちに休み、慰められた体験です。闇の時にこそ与えられている灯、光に気づきます。立ち止まり、ふり返れば、闇の時こそ恵みの時でもあります。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたの恵みと導きによって英和祭を献げ、豊かな実りが与えられたことを感謝します。どうかわたしたちの過ちを赦し、足りないところを補って、すべてをもってあなたの栄光をあらわすものとしてください。今朝、ひとときの休みを与えられ、共に新しい週を迎えました。新たな気持ちで、自ら学び、共に学び、課題や困難にあってもあなたの言葉に励まされ、共に成長させてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン